



今を大切に 高齢者らの絆を深め、生きがいを語り合おう 仰ぎ見る立山連峰、きときとの越中の地で

第36回全国ろうあ高齢者大会

2024年9月26日(木)～29日(日)

主催:(一財)全日本ろうあ連盟高齢部

主管:(福)富山県聴覚障害者協会

速報
第10号

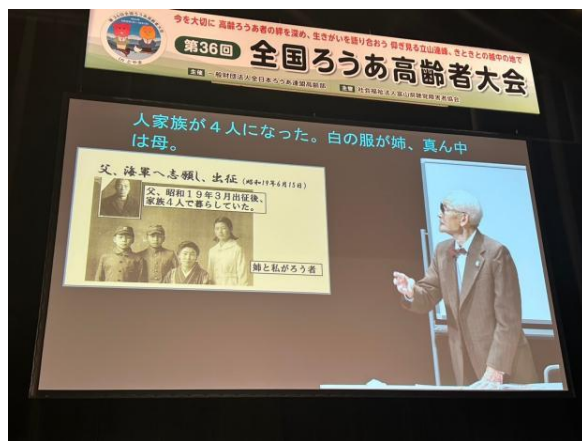
2024年9月28日発行



講演会②-2

「伝えたい富山大空襲の経験」

講師:竹川 秀夫氏



『平和を願う』をテーマに、富山から竹川氏に講演いただきました。富山大空襲当時、竹川氏は13歳で、富山盲啞学校に通っていました。なんと、爆撃予告のビラが撒かれていたとのこと。その後、8月1日の深夜に鳴り響くサイレンを聞いた母に起こされ逃げたのです。防空壕から周りを見渡すと町が赤くなっているのが見えました。防空壕から逃げるよう言われ、外の燃え盛っている様子を見て怖くなったとお話されました。その様子は空襲から逃げた当事者でなければ表現できないような緊迫性がありました。

また、空襲後の富山の街の様子も語られ、日本が終戦したことは手話のできない母から身振り手振りで教えてもらったそうです。そして、終戦後の生活ではしばらくは馬小屋のようなところで暮らしていたと語られました。

竹川氏の講演テーマにあるように、「伝えたい」という思いを、私たちがしっかり受け取り、戦争の恐ろしさ、悲惨さを後世に「伝えて」いかねばならないと思いました。



大会の様子や講演を拝聴した感想を聞いてみました！



川本高齡部長の挨拶

南 瑠霞氏の講演

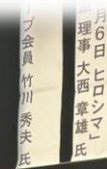
- ・講師がきこえる方で声を出しながら手話を使っておられるのすごいなあと思っていましたが当事者からするとやっぱりろう者でないと説得力がない、周りからの信頼を得づらいなど裏話を聞いて実感しました。
- ・ろうあ運動を通して代々若い人に受け継いでいかなければならないと痛感しました。



橘実行委員長の挨拶

大西 章雄氏の講演

- ・凄惨な体験をお聞きし、戦争を繰り返してはならないと改めて痛感しました。
- ・被爆し、時間が経っても後遺症に苦しんでいる方々の現状を見て、原爆の恐ろしさを再認識しました。
- ・言葉にならない思いです。戦争をしてもいいことはない。世界が平和でありますように



司会担当 大倉



大盛況！！

竹川 秀夫氏の講演

- ・富山県でも空襲があったと初めて知った。当事者を知る方の話を聴くことができて良かった。
- ・これからは穏やかに健やかにゆっくり過ごされることを祈っています



開会宣言